

元治元年七月五日より元治元年七月九日まで

P8311161 right

一陶器を以てす、野宮(市)来り大白瓜三を贈らる

六日辰 晴

彩義竿を建つ星夜の祭也、松盛亭、極亭稽古に来る、出殿、京地御所向へ兇徒等乱

入尾州殿へ援兵の命ありし旨、並黒田家、長州へ荷告の聞有し挙動怪敷旨等の風聞有し、須崎

伯母来り伊藤(幸)方へ行き同人妻を伴い来り小品持参、酒飯等設く、金蔵母来り同人叔父

病により一□の段を乞へり聞濟遣す、金港甲州より水府家老□御呼出し閣老御逢の子細問合と

して一書さし越す、同断豊州より長崎表李国居留地云々取斗振の義に付縷々申越す細谷(伊)より

西瓜一枚

贈り越せし旨、加州より素麴一籠差、鮎一籠贈り来りし旨、寺山(佐)転役の謝に来る一杯を勧む

七日巳 雲漸晴

御席は差支に付、御禮無し、加州時候見舞にして白銀五枚越後縮三反、鯉節一籠贈り来る、出

P8311161 left

殿、松前、豆州御老中格海陸惣奉行被蒙、仰々甲豊両州へ昨の返書卯三郎へ托す、黄窪より

羊糕一大管贈り越す、過日の謝となるべし、由比より此度転進の内祝のことなりとして割烹品

二折三割

酒券を贈り来る、大野(清)京都見廻組被仰付吹聴に来る、明荷壹駄を残品に遣す

八日午 晴

宅調、五郎生来る、小笠原撰州口上を以て吟(高)山令助なるもの面晤の義申し入る、町田せい来

る金子

借用の義頼聞る

九日未 雲漸晴

神谷(蔵)初て来り面す、福地(源)志願筋にて来る、中村(謹)来り厄介等□義に付、云々申聞る

出 殿、

筑波屯州追討として玄蕃頭殿、三番頭御持御先手御徒頭小十人頭、何れも組とも一隊づつ

御目付

出張の義昨日、台命有し、右追討先隊の歩兵、一昨日撻報昨事申来りし旨、此方一人の傷

*1:

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。